

古河電工

古河電気工業株式会社

2022年3月期 第2四半期決算説明会

2021年11月4日実施

[登壇者]

3名

代表取締役社長 小林 敬一（以下、小林）

代表取締役 兼 執行役員副社長 コーポレート統括本部長 荻原 弘之（以下、荻原）

取締役 兼 執行役員常務 財務・グローバルマネジメント本部長 福永 彰宏（以下、福永）

2021年度上半期決算のポイント

■上半期実績は増収・増益

○売上高・営業利益

自動車部品事業において顧客の減産、コロナ影響による東南アジア一部拠点のロックダウンの影響はあるもインフラ、電装エレクトロニクス、機能製品セグメントで増収*1増益

○経常利益

営業利益の増益、持分法投資損益改善により増益

*1 銅価上昇の影響：+277億円（675円/kg→1,092円/kg）
「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等
適用の影響：▲249億円

○親会社株主に帰属する当期純利益

特別損益の減少（115→23億円）*2により、
親会社株主に帰属する当期純利益は72億円

*2 FY20_H1特別利益：
固定資産処分益221億円

	FY19_H1	FY20_H1	FY21_H1	前年比
	a	b	c	c-b
売上高	4,552	3,545	4,473	+928
営業利益	108	▲33	72	+106
経常利益	84	▲60	108	+167
親会社株主に帰属する 当期純利益	61	16	72	+56

(単位：億円)

福永：福永でございます。それでは、2021年度第2四半期決算についてご説明させていただきます。では最初に3ページをご覧ください。

上半期決算のポイントでございます。売上高・営業利益、経常利益、当期純利益、いずれも昨年度より上振れております。増収増益でございます。

売上高と営業利益に関しましては、自動車部品事業において、顧客の減産、コロナ影響、一部ございましたけれども、昨年のコロナよりは回復してきているということは上期にはございました。インフラ、電装エレクトロニクス、機能製品セグメントで増収増益でございました。

経常利益に関しましては、営業利益の増益に加えまして、持分法投資損益、UACJ社なんですけれども、改善したことで増益でございました。

親会社株主に帰属する当期純利益に関しましては、72億でございます。こちらは昨年に比べまして56億円増益で、経常利益より上より、100億円程度、増益幅が少なくなっておりますけれども、これは昨年、大阪の土地の売却で220億円程度プラスがあった。それが無くなった影響でございますので、実質的には、当期利益もかなり大きく上振れている状況でございました。

2021年度通期予想

■ 2021年度通期予想見直し

- 主に自動車部品事業における、半導体・樹脂不足等による顧客減産、コロナ影響による東南アジア一部拠点のロックダウンの影響、グループ全社における材料費・輸送費の高騰、物流混乱・遅延の影響により営業利益を下方修正
- また、持分法投資損益の改善を見込むも、営業利益の下方修正により、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益を見直し

(単位:億円)

	FY19	FY20	*FY21 前回予想	FY21予想	前年比	前回予想比
	a	b	c	d	d-b	d-c
売上高	9,144	8,116	8,800	8,800	+684	-
営業利益	236	84	260	200	+116	▲60
経常利益	228	52	240	220	+168	▲20
親会社株主に帰属する 当期純利益	176	100	120	100	▲0	▲20
銅建値 平均	682	770	1,000	1,046	(Q3-Q4前提: 1,000)	
為替 平均	109	106	105	107	(Q3-Q4前提: 105)	

*2021/5/12公表

All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2021

4

続いて、4 ページでございます。

通期の見通しでございます。こちら売上は据え置きとさせていただいておりますが、営業利益以下の損益は下方修正でございます。

まず、自動車部品事業における半導体・樹脂不足等による顧客の減産。コロナ影響による東南アジア一部拠点のロックダウンの影響。さらにはグループ全社における材料費・輸送費の高騰、物流混乱、遅延、こういった影響がございます。営業利益を 60 億円下方修正しております。

持分法投資損益に関しましては、下期増えまして改善を見込んでいますが、営業利益の下方修正でございますので、それぞれ 20 億円、前回予想から下げております。当期利益は 100 億円とさせていただきます。

2021年度上半期実績—要約P/L

(単位：億円、円/kg、円/米ドル)

	FY19 H1	FY20 H1	FY21 H1	前年比	主な増減内訳 (H1)
	a	b	c	c-b	
売上高	4,552	3,545	4,473	+928	+928億円(+26%) 7ページ参照
営業利益	108	▲33	72	+106	+106億円 8ページ参照
(率)	2.4%	▲0.9%	1.6%	+2.6	
持分法投資損益	▲2	▲11	43	+54	
為替損益	▲8	▲4	4	+7	
経常利益	84	▲60	108	+167	+167億円
(率)	1.8%	▲1.7%	2.4%	+4.1	
特別損益	21	115	23	▲92	・特別利益：▲195 (230→35)
法人税等	42	34	48	+14	・特別損失：+103 (▲115→▲12)
非支配株主に帰属する 当期純利益	2	6	11	+5	
親会社株主に帰属する 当期純利益	61	16	72	+56	+56億円(+358%)
(率)	1.3%	0.4%	1.6%	+1.2	特別利益： ・過年度社会負担金還付額(17:Q1) ・固定資産処分益(6:Q1)
銅建値 平均	692	675	1,092	-	
為替 平均	109	107	110	-	

All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2021

5

それでは、次、5ページをお願いいたします。

5ページに関しましては詳細と言いますか、概略は先程ご説明した通りでございます。

持分法投資損益を見ていただきますと、54億円のプラスになっておるところで、この大半が、UACJ社となります。

特別損益に関しましては、昨年より減ってはおります。これも先程申し上げた数字の影響でございます。ただし特別利益、特別損失とも、昨年より発生は減っているところでございますので、その点ご認識いただければと思います。

2021年度通期予想—要約P/L

(単位：億円、円/kg、円/米ドル)

	FY19	FY20	*FY21 前回予想	FY21 予想	前年比	前回予想比
	a	b	c	d	d-b	d-c
売上高	9,144	8,116	8,800	8,800	+684	-
営業利益	236	84	260	200	+116	▲ 60
(率)	2.6%	1.0%	3.0%	2.3%	+1.2	▲ 0.7
持分法投資損益	25	▲9	-	-	-	-
為替損益	▲ 10	5	-	-	-	-
経常利益	228	52	240	220	+168	▲ 20
(率)	2.5%	0.6%	2.7%	2.5%	+1.9	▲ 0.2
特別損益	80	161	▲ 35	▲ 15	▲ 176	+20
法人税等	118	92	-	-	-	-
非支配株主に帰属する 当期純利益	14	21	-	-	-	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	176	100	120	100	▲ 0	▲ 20
(率)	1.9%	1.2%	1.4%	1.1%	▲ 0.1	▲ 0.2
銅建値 平均	682	770	1,000	1,046	(Q3-Q4前掲：1,000)	
為替 平均	109	106	105	107	(Q3-Q4前掲：105)	

*2021/5/12公表

All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2021

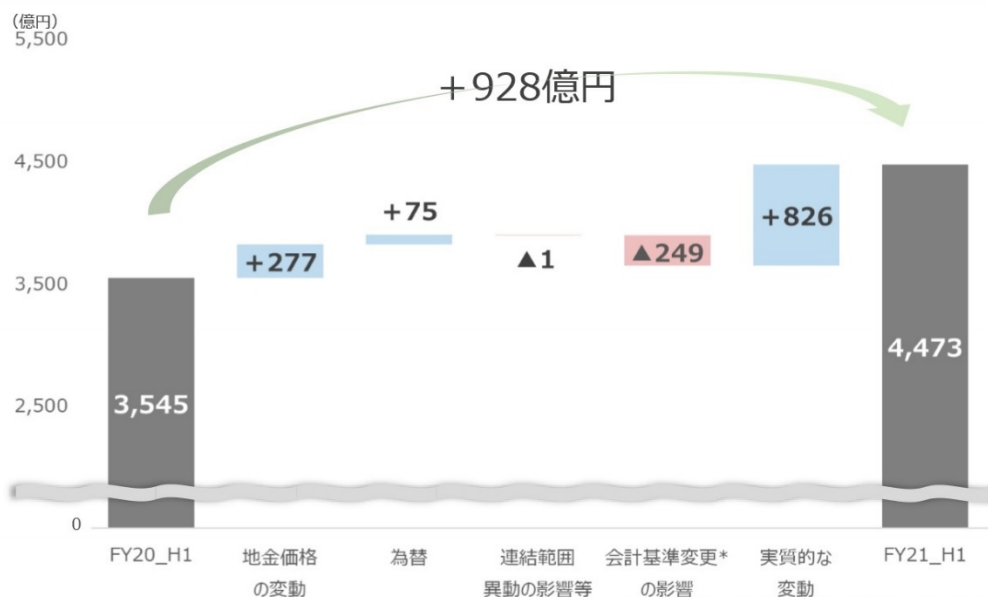
6

次、6 ページでございます。

6 ページは通期予想でございます。

こちらは特別損益マイナス 15 億円と、前回の予想から 20 億円の改善を見込んでおります。これは上半期に特別利益、こちらが想定より大きく出た。一方で、リスクの状態がそのまま据え置いていますので、マイナス 15 億円、特益が増えたことで改善しています。

売上高の増減要因（前年比）



All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2021

続いて7ページ、売上高の増減要因。前年比のウォーターフォールでございます。

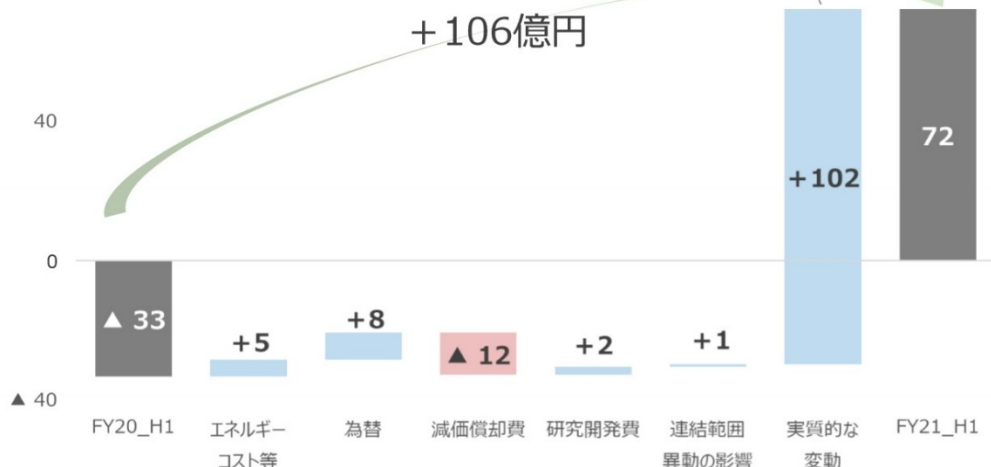
売上は928億円の増加でございますが、特殊要因を除くと826億円の増加でございます。とくに、地金の影響が、地金価格の上昇の影響でのプラスでございます。あと為替も円安に振れているところでプラスございました。

一方で会計基準の変更、収益認識基準の変更で250億程度マイナスになっており、こういうところが特殊要因でございます。

営業利益の増減要因（前年比）

(億円)

売上増減・品種構成差・原価低減等： 約+177億円
 材料費・輸送費高騰の影響： 約▲45億円
 固定費（減価償却費・研究費除く）： 約▲30億円



All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2021

8

続いて 8 ページ。営業利益の増減要因のウォーターフォールでございます。

前年度から 106 億円のプラスでございます。特殊要因いくつかございますけれども、106 億円のうちの 102 億円、こちらは実質的な変動とさせていただきます。ただし、その中身は右上の四角のなかに記載しておりますが、売上増減・品種構成差・原価低減等により、約 180 億円程度、こちらはプラスになっております。一方で、材料費・輸送費の高騰、こちらで 45 億円のマイナス。固定費で 30 億円のマイナスでございます。

固定費の中身に関しましては、第 1 クォーターの時にご説明さしあげましたけれども、操業が戻ってくるなかで、工場の維持費であったり、あるいは検査、品質管理といった部分での、工場運営における固定費部分、こちらが 15 億円程度増えております。加えて、昨年の第 2 クォーターにはコロナ蔓延で、各国で工場が閉鎖される事態に追いやられました。その結果、14 億円、特別損失に振り替えていたことがございます。そちらが今年度なくなり、工場の固定費、運営費で戻ってまいりますので、先程の 15 億、この 14 億と合わせて、およそ 30 億円のマイナスがこの要因でございます。

セグメント別売上高および営業利益

■ 通期予想見直し

【参考】
会計基準変更前の場合の売上高

(単位：億円)

	H1				通期						H1		通期	
	FY19	FY20	FY21	前年比	FY19	FY20	*FY21 前回予想	FY21 予想	前年比	前回予想比	FY21	前年比	FY21 予想	前年比
	a	b	c	c-b	d	e	f	g	g-e	g-f	c'	c'-b	g'	g'-e
売上高														
インフラ	1,379	1,222	1,429	+208	2,809	2,592	2,800	2,900	+308	+100	1,447	+226	2,983	+391
情報通信ソリューション	822	763	928	+166	1,664	1,583	1,750	1,850	+267	+100	921	+159	1,866	+283
エネルギーインフラ	557	459	501	+42	1,145	1,009	1,050	1,050	+41	0	526	+67	1,117	+108
電装エレクトロニクス	2,544	1,753	2,388	+635	5,093	4,330	4,800	4,700	+370	▲100	2,588	+835	5,030	+699
自動車部品・電池	1,227	952	1,204	+252	2,576	2,351	2,600	2,450	+99	▲150	1,255	+303	2,491	+141
電装エレクトロニクス材料	1,317	800	1,183	+383	2,517	1,980	2,200	2,250	+270	+50	1,332	+532	2,538	+559
機能製品	586	524	638	+114	1,159	1,147	1,150	1,300	+153	+150	670	+146	1,402	+255
サービス・開発等	262	207	205	▲2	503	387	370	350	▲37	▲20	205	▲2	354	▲33
連結消去	▲219	▲161	▲188	▲27	▲420	▲340	▲320	▲450	▲110	▲130	▲188	▲27	▲450	▲110
連結合計	4,552	3,545	4,473	+928	9,144	8,116	8,800	8,800	+684	0	4,723	+1,178	9,318	+1,202
営業利益														
インフラ	6	▲17	15	+32	17	▲21	55	60	+81	+5				
情報通信ソリューション	8	▲2	9	+10	16	▲2	45	45	+47	0				
エネルギーインフラ	▲3	▲15	7	+22	1	▲19	10	15	+34	+5				
電装エレクトロニクス	67	▲30	24	+55	148	59	140	70	+11	▲70				
自動車部品・電池	52	▲27	▲0	+26	109	50	120	40	▲10	▲80				
電装エレクトロニクス材料	15	▲4	24	+28	39	9	20	30	+21	+10				
機能製品	36	22	40	+18	75	63	90	90	+27	0				
サービス・開発等	▲1	▲9	▲6	+3	▲3	▲17	▲25	▲20	▲3	+5				
連結消去	▲0	1	▲1	▲2	▲1	1	0	0	▲1	0				
連結合計	108	▲33	72	+106	236	84	260	200	+116	▲60				

*2021/5/12公表

続いて9ページでございます。セグメント別売上高および営業利益の明細でございます。

この内容につきましては、次ページ以降でご説明いたします。

1-(1) インフラ(情報通信ソリューション)

FY21_H1実績



【H1実績：営業利益対前年比】

- (+) 北米光ケーブル、南米FTTH、LANソリューションで増収
- (+) 北米光ケーブルの生産性は改善
- (+) 特殊ファイバ回復
- (+) 国内ネットワーク関連製品は堅調
- (-) 原材料不足・価格高騰や輸送費高騰
- (-) デジタルコヒーレント関連製品は顧客在庫調整による需要減および東南アジア地域のコロナ影響による一時的な操業低下
- (-) 減価償却費の増加

FY21_通期見通し



【H2予想】

- ・ 光ファイバ・ケーブルは中国国内での価格上昇と需給バランス、さらに原材料価格上昇が、グローバルでの市場価格に及ぼす影響を注視
- ・ 北米（ローラブルリボンケーブル、接続部品等）、南米（ソリューション）、国内いずれも好調。特殊ファイバも好調継続
- ・ デジタルコヒーレント関連製品はQ3以降回復
- ・ 原材料価格、輸送費の高騰には、販売増、品種構成改善、原価低減、経費抑制および価格水準の適正化等で対応

それでは 11 ページをご覧ください。

情報通信ソリューションの状況でございます。情報通信ソリューションの上期の実績ですけれども、こちらは増収増益となっております。通期見通しでも増収増益という見通しでございます。

内容につきましては、上期、北米光ケーブル。こちらは数量、生産性については昨年から改善しています。南米のFTTH、LANソリューションも好調に推移しておるところのプラスがございます。また昨年はコロナ禍で苦戦しておりました特殊ファイバ、こちらも回復してきております。

一方で原材料の不足、価格高騰、輸送費高騰といったマイナス影響がございまして、実際プラスは 10 億円のプラスとなっております。詳細は次ページで説明いたします。

右側に、下期の予想が記載されております。光ファイバ・ケーブルに関しましては、皆様ご案内の通り、先のチャイナモバイルの入札価格、こちらが 1.5 倍に上昇。さらには入札数量も増加したことで、需給バランスの状況、少し変わってきているかなというところはございます。このなかで、原材料上昇の影響がグローバルでの市場価格にどう影響するか、こちらを注視していく必要があるという認識でございます。

また、ローラブルリボンケーブル、接続部品等、好調な北米市場、ソリューション事業、こちらも南米で、国内においても引き続き好調な状況が続いております。

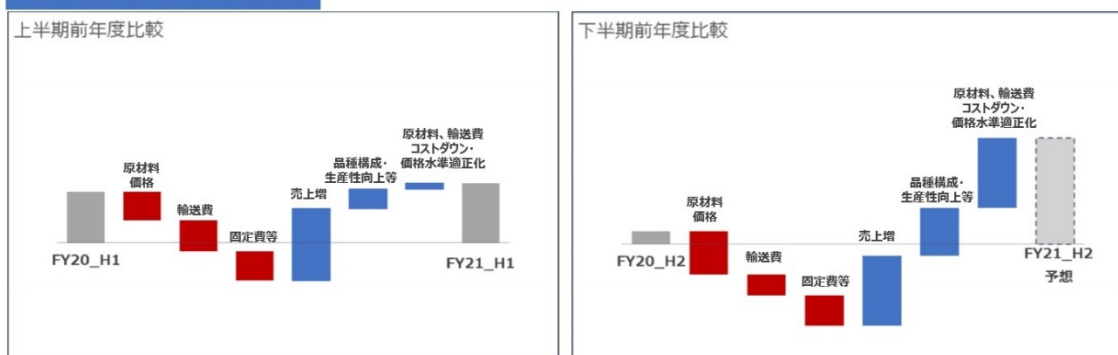
特殊ファイバに関しましても、上期から下期にかけて好調が持続する見込みです。また、上期に関しては、デジタルコヒーレント関係、一時的な在庫調整、あるいはコロナ影響でマイナス影響はあったんですけども、9 月以降は回復してきております。これは第 3 クォーター以降もプラスに働くことで、プラスを見込んでおります。

原材料価格、輸送費等の影響については、引き続きマイナス要因となるところでございます。

光ファイバ・ケーブルについて

- 原材料不足・価格高騰や輸送費高騰の影響を受けるも生産性向上による販売増・原価低減、品種構成改善（高付加価値品の拡販）および顧客コミュニケーションによる価格水準の適正化を推進

光ファイバ・ケーブル営業利益



All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2021

12

詳細について、次のページでご説明いたします。

これは光ファイバ・ケーブルの前年度比を上期、下期に分解したものでございます。

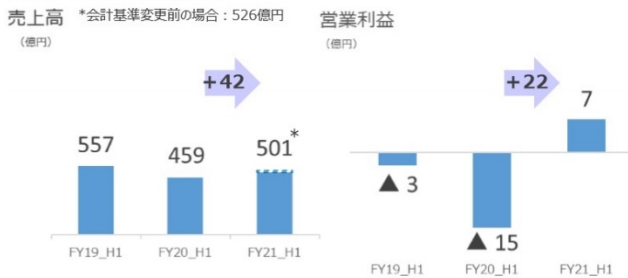
上期に関しまして、原材料、輸送費、固定費等のマイナス。こちらはおよそ 30 億のマイナスが入っております。一方で、売上の改善、品種構成、あるいは生産性の向上。その他、原材料、輸送費のコストダウン、価格水準を見直したところも一部入りまして、全体では 5 億円程度プラスといったのが上期の実績です。

下期に関しましては、同様に原材料費、輸送費、固定費のマイナスは続きます。一方で売上に関しては、上期同様、順調に昨年から改善していく。品種構成、生産性の向上に関しまして、北米の生産性さらに進めてまいります。品種構成に関しまして、受注関係ではローラブリボン等、高付加価値のものが既に増えてきていることで、その効果が下期に発現するというところでございます。

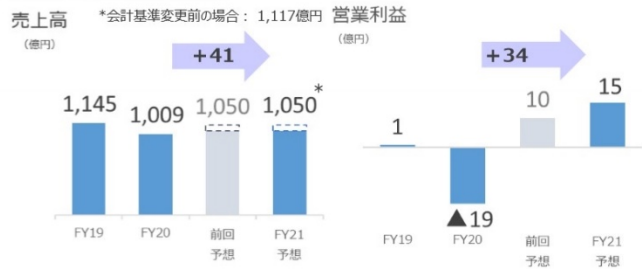
また、原材料、輸送費のコストダウン、さらには価格の適正化で、こういった施策を進めていくことで、およそ 35 億円、下期は昨年から改善する見立てでございます。

1-(2) インフラ(エネルギーインフラ)

FY21_H1実績



FY21_通期見通し



【H1実績：営業利益対前年比】

- (+) 海外海底線、国内地中線案件および中国子会社は想定通りの進捗
- (+) 国内建設・電販市場向けの需要は緩やかに回復
- (+) 新規材料採用に伴う評価費用の一時的発生は2020年度で終了

【H2予想】

H1同様に

- ・ 海外海底線、国内地中線案件および中国子会社は想定通りの進捗見込み
- ・ 国内建設・電販市場向け需要は緩やかに回復。加えて機能線、部品等の拡販とさらなる原価低減推進

続いて 13 ページ。エネルギーインフラでございます。

エネルギーインフラ、上期増収増益。年度でも増収増益となっております。

これに関しましては、海外の海底線、国内の地中線、および中国の子会社。こちらは想定通りに進捗しております。とくに中国子会社は昨年、コロナ影響を大きく受けておりましたけれども、これからは改善して黒字化しています。

国内建設・電販市場、需要に関しては緩やかな回復でございます。そのなかで、原価低減等を進めるなかで、昨年の赤字から黒字、若干ですけれども、戻していく状況まで回復はしてきております。

また、昨年は新規材料採用で、評価費用がかなり発生しておりました。そちらが今年度はなくなったことで、こちらのプラスもございまして。この影響で、昨年のマイナス 15 億から 7 億円に、プラス 22 億円の改善に繋がっております。

下期に関しましては、上期と同様の状況が続くと見えています。さらに原価低減を進めていくことで、年間の営業利益の見立てですけれども、10 億円の予想を 15 億円と上方修正とさせていただきます。

2-(1) 電装エレクトロニクス(自動車部品・電池)

FY21_H1実績

売上高 *会計基準変更前の場合：1,255億円 営業利益
(億円)



FY21_通期見通し

売上高 *会計基準変更前の場合：2,491億円 営業利益
(億円)



【H1実績：営業利益対前年比】

- (+) 自動車市場の回復による増収
- (-) 半導体、樹脂不足等による顧客の減産および輸送費の高騰の影響
- (-) コロナ影響による東南アジアの一部拠点のロックダウンの影響および感染予防・BCM運用費用
- (-) 減価償却費の増加

【H2予想】

- 東南アジアの一部拠点のロックダウンによる操業影響および感染予防・BCM運用費用
- 半導体不足の影響はQ4以降解消するとみており、顧客情報把握・集約、戦略在庫保有による需要回復時への対応準備
- コロナ影響等による港湾の混雑、コンテナ不足等に起因した輸送費増加と物流遅延への対応策実施（安全在庫確保やグローバルサプライチェーン強化継続を含む）

続いて 14 ページ、自動車・電池の状況でございます。

自動車・電池に関しましては、上期、こちらは増収増益となっております。

上期に関しましては、自動車市場の回復。昨年のコロナ禍よりは回復しているという意味での増収がございます。

一方で、半導体、樹脂不足等によるお客様の減産。輸送費の高騰等の影響がございます。

また、コロナ影響での東南アジアでのロックダウンの影響、こちらも出てきておりますし、それに対する BCM の運用費用での費用発生がございます。減価償却の増加もございます。

こういうなかで、上期は、増収増益は確保しております。ただ、少し補足させていただきますと、われわれどもの海外の関係子会社、こちらの決算期、1 から 6 月でございます。そのため、7 月以降、9 月、10 月。まあ 9 月にかけて、コロナ影響でロックアウトの関係で操業がかなり落ちていた、あるいは止まっていた状況がございましたけれども、これは第 2 クォーターにはまだ現地の数字は出ていません。これは第 3 クォーターに出てまいります。

一方で、日本サイドでは既に売上に影響があったり、その対応のための費用が発生していることで、マイナスが入っている状況でございます。ですので、日本側の影響が 2 クォーターに入り、3 クォーターで現地側の費用、こちらが計上されてくる構造になることで、ご認識いただければと思います。

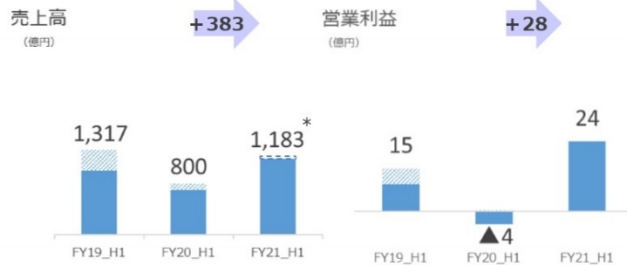
通期見通しに関しましては、やはりコロナ影響が大きく出ておりまして、増収にはなりますけれども、減益となります。

売上に关しましては、前回予想から 150 億円下げています。これはほぼ第 3 クォーターへの影響が大きいと見ております。

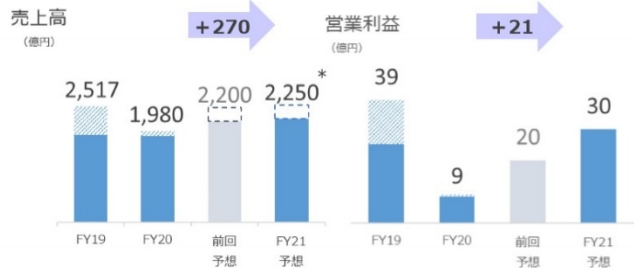
営業利益に関しましても、120 億円から 40 億円に低下で、80 億円のマイナスでございます。売上の減少とともに、物流費の高騰、あるいは BCM の運用費用、こういったものの増加がマイナス要因でございます。

2-(2) 電装エレクトロニクス(電装エレクトロニクス材料)

FY21_H1実績

*会計基準変更前の場合：1,332億円
銅値上昇の影響：234億円

FY21_通期見通し

2020年3月未まで銅管事業、2020年9月未まで太物巻線事業を含む
*会計基準変更前の場合：2,538億円
銅値上昇の影響：378億円

【H1実績：営業利益対前年比】

- (+) 車載およびエレクトロニクス関連製品を中心に回復している需要を着実に取り込み
- (+) 戦略商品拡販による製品ミックスの改善

【H2予想】

- 半導体不足等による市況の変動リスクはあるが、車載およびエレクトロニクス関連製品の需要は概ね堅調。着実に需要を取り込みつつ、戦略商品拡販による製品ミックスの改善をさらに推進
- サプライチェーン内での在庫調整を注視

続いて、電装エレクトロニクス材料でございます。

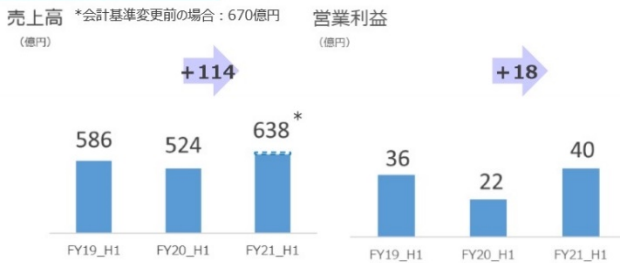
こちらにつきましては、増収増益が上期、あるいは通期、両方同じ状況でございます。

非常に好調に推移しております。車載およびエレクトロニクス関連、こちらは順調に回復しておりますし、なかでも戦略商品の拡販、製品ミックスの改善が進んでいることで、かなりプラスになっています。

下期に関しましても、足元では状況大きく変わっておりません。ただ、そのなかで、半導体不足によるお客様の影響は今後出てくる可能性もあるということで、数字に関しては慎重に見ているところがございます。ですので、われわれ自身の商品、極めて上流工程、最上流工程にあるということで、半導体影響による最終のお客様の影響が遅れて出てくる、リスクがある、ということで慎重に見ているとご認識いただければと思います。

足元の状況を踏まえまして、売上、営業利益ともに増収増益で、このセグメントは見直ししております。

FY21_H1実績



FY21_通期見通し



【H1実績：営業利益対前年比】

- (+) 銅箔は、台湾拠点の火災復旧による回路用銅箔の受注増および電池用銅箔の需要回復
- (+) 半導体製造用テープ、放熱・冷却製品を中心に、活況な半導体、データセンタ関連製品等の需要取り込み
- (+) 放熱・冷却製品のフィリピン新拠点での製造本格化
- (-) 輸送費、原材料価格高騰の影響

【H2予想】

- 5G関連、データセンタ関連製品の需要は好調も、半導体、材料不足の影響懸念
- 好調な市場における需要の確実な取り込み継続
- 輸送費、原材料価格高騰の影響は当初想定よりも長引き、注力市場への拡販により影響を最小化

16 ページ、機能製品でございます。

こちら上期、年間、いずれも増収増益でございます。銅箔は台湾の火災からの復旧、こちらが9月でほぼ完了で、今後さらにプラスに寄与してくる見込みでございます。あとは半導体製造用テープであったり、データセンタ向けの製品、こちらは好調に推移しております。

また一方で、輸送費、原材料価格の高騰は同じような状況です。こちらについては、マイナス影響でございます。

通期の見通しも、おおよそ同じ状況が続きます。とくに輸送費、原材料価格高騰の影響は、想定よりも長引く見込みでございます。そのなかで、当然、注力市場への拡販もございまして、価格の適正化を進めていくことによって、営業利益に関しましては90億円という予想を維持する予定でございます。

2021年度上半期実績—要約B/S

(単位：億円)			
	FY20_Q4末	FY21H1末	増減
	a	b	b-a
流動資産	4,298	4,348	+50
現金及び預金	844	535	▲309
受取手形、売掛金及び契約資産	1,919	2,008	+89
たな卸資産計	1,208	1,468	+260
固定資産	4,022	4,138	+116
有形固定資産	2,467	2,522	+55
無形固定資産	203	199	▲3
投資その他の資産	1,352	1,417	+65
資産合計	8,320	8,487	+166
流動負債	3,152	3,155	+3
固定負債	2,252	2,340	+88
負債合計	5,404	5,495	+91
株主資本	2,604	2,630	+26
その他の包括利益累計額	▲5	35	+40
非支配株主持分	317	327	+9
純資産合計	2,916	2,992	+75
負債・純資産合計	8,320	8,487	+166
有利子負債	2,906	3,017	+111
自己資本比率	31.2%	31.4%	+0.2
NET D/Eレシオ	0.8	0.9	+0.1

現預金
309億円 減少
19Q4末(544億円)並みの水準へ

たな卸資産
260億円 増加
物流遅延に対する供給継続および自動車部品事業の下期回復に備えた在庫確保
将来売上計上予定のプロジェクト・工事案件等
為替影響、銅価影響、新規連結の影響： +46億円

有形無形固定資産
52億円 増加
設備投資・減価償却費の影響： ▲5億円
為替、新規連結等による影響： +64億円

資産合計
166億円 増加
為替影響： +124億円
新規連結の影響： +29億円

NET有利子負債
420億円 増加
(2,063億円→2,483億円)

All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2021

17

続いて 17 ページ、バランスシートでございます。

バランスシートにつきましては、真ん中から下、少し色がついているところ、資産合計がございます。166 億円増加ですけれども、為替影響、新規連結の影響が 153 億円占めている状況です。

また、明細を見ますと、たな卸資産が 260 億円の増加です。とくにやはり物流遅延により供給を我々が止めてはいけないというなかでの、在庫確保というところ。あるいは自動車部品、下期からの急回復というところ。こちらに備えた在庫を確保しております。その他、将来に向けた工事関係の在庫もございまして、銅価の上昇等に伴う増加もございまして、そういった関係で、260 億円の増加になっております。

下期にかけましては、当然適正な在庫で、こちらも抑制は進めてまいります。

NET 有利子負債に関しましても、このたな卸資産の増加の影響、かなりここが大きくなっておりまして、420 億円の増加。この結果、NET D/E レシオも 0.8 から 0.9 で、若干悪化という格好になっております。

自己資本比率については若干の改善です。

■ 概ね想定通りの実績。 通期見通しに変更なし

	FY19_H1	FY20_H1	FY21_H1	前年比	FY21 予想
	a	b	c	c-b	d
設備投資額	262	182	166	▲16	450
減価償却費	142	158	170	+12	370
研究開発費	109	104	101	▲3	220

(単位：億円)

*2021/5/12公表

18 ページ、上半期の設備投資額・減価償却費・研究開発費の状況でございます。

こちらは、ほぼ想定通りの進捗でございます。予想に関しましても、今年度の予想、こちらは見直しておりません。ただし、設備投資に関しましては、コロナ影響により、タイミングが少しズレてきているものもございます。そういったものを精査することによって、若干低めの数字に抑える方向で、今、進めておるとご認識いただければと思います。

私のご説明は以上でございます。

司会：はい、ありがとうございました。では、続きまして、社長の小林より、ご説明をさせていただきます。小林社長、お願いいたします。

現状の課題と事業への影響

1. 重点取組み

- (1) 光ファイバ・ケーブル事業
- (2) 自動車部品事業
- (3) その他の事業における拡販・原価低減
- (4) 全社活動：材料安定調達、物流対応、棚卸資産管理

2. ESG取組み

- (1) 環境
- (2) 社会
- (3) ガバナンス

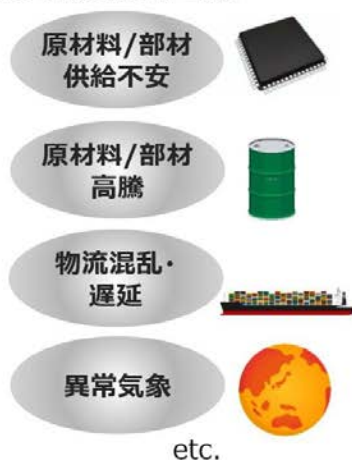
3. 年間業績予想と配当について

小林：小林でございます。大変ご無沙汰してございます。また、本日は大変お忙しいなか、ご参集賜りまして、誠にありがとうございます。私からは現状および今後の取組みということで、ご説明してまいります。皆様お手元よろしゅうございますでしょうか。

3ページ目に、本日の説明内容を示させていただきます。お話する内容はその通りでございますが、お伝えしたいことは、今、何が起きていて、どうわれわれが対処して、その結果をどう評価して、次に繋げる活動をどのように進めているかということをお伝えしたいと考えてございます。

事業環境

自然災害、事故、環境規制等によるパートナーの工場停止、パートナーのポートフォリオ組換えに伴う高付加価値品へのシフトによる供給停止など



事業・収益への主な影響

情報通信ソリューション事業：
光ファイバ・ケーブル材料費・輸送費高騰

機能製品およびエネルギーインフラ事業：
ポリエチレン価格等の上昇

自動車部品事業：
半導体・樹脂不足等による顧客減産、
輸送費高騰、物流遅延、東南アジアコロナ影響

etc.

影響の最小化に向けた
グループ全社での取組みを加速

それでは次、4 ページ目をご覧ください。

こちらには、現状の課題と事業の影響を示してございます。左側に事業環境、右側には事業・収益への主な影響とございますが、少し詳しく、ご説明したいと思います。

当社にとってのリスクは、この左側の図にあるように、一つ目といたしましては、さまざまな事業に影響を与える原材料や輸送費価格の上昇がございまして、二つ目として、とくに自動車部品事業に影響を与えた、コロナ感染再拡大と半導体不足がございまして、そして三つ目が自然災害、設備老朽化、カーボンニュートラル対応によるサプライヤーの皆様のポートフォリオ改革。これによる調達リスクがございまして、そして4番目として、地政学的なサプライチェーンの揺らぎ。例えば、環境規制の変化に対応できずに操業が止まってしまう。結果として供給いただけない不安を引き起こす、等々がございまして。

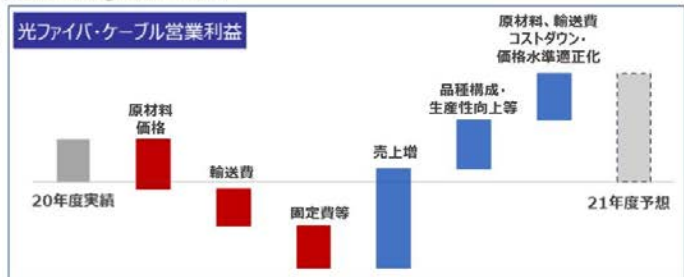
こういったものが、逆に言いますと、この1年間非常に顕在化してきたと。昨年、電力ケーブルで、新規材料の採用をさせていただきましたが、そういうことを含めて、予想されたことが非常に大きく顕在化してきたのが昨今の状況でございます。

1. 重点取組み（1）光ファイバ・ケーブル事業

■ 上期は、原材料不足・価格高騰や輸送費高騰の影響は受けるも増収増益を確保。

高付加価値製品拡販、生産性・コスト競争力向上に加え、以下の対応を強化。

- 好調な需要下での販売増（北米・中南米・国内）
- 原材料不足・価格高騰：調達ルートの見直し（複数社購買）、代替材料の検討
- 輸送費高騰：輸送管理システム活用による効率化（物流ルート、積載効率の改善等）
- 顧客とのコミュニケーションによる価格水準の適性化



そういうなかでの重点的な取組みについてご説明を続けてまいりたいと思います。次、5 ページ目をご覧ください。

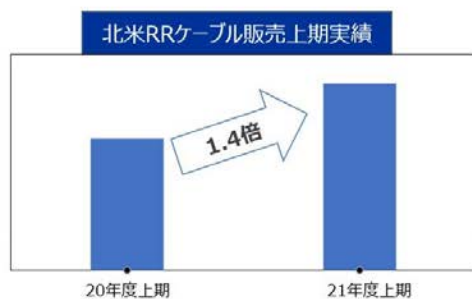
まず、光ファイバ・ケーブル事業でございます。

先程お話いたしましたように、上期は原材料不足・価格高騰や輸送費高騰の影響は受けるも、増収増益を確保ということでした。高付加価値製品の拡販、生産性・コスト競争力の向上。これはもちろんでございますが、その下の丸印の4項目。好調な需要下での販売増等々、これらも強化してございます。

1. 重点取組み（1）光ファイバ・ケーブル事業

■ 高付加価値製品の拡販

- 北米プロジェクトマーケット、データセンタ向け中心に複数顧客へのローラブルリボンケーブル受注・納入が進展。
上期は前年比1.4倍、年間では1.5倍以上の規模に成長。
- 特殊ファイバ（通信・非通信用途）も2割以上の増収を見込み、増益に貢献。



All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2021

6

それでは次のページ、6 ページをお開きください。

こちらにまず、高付加価値製品の拡販の状況について示してございます。

まず一つ目、北米プロジェクトマーケット、データセンタ向け中心に複数のお客様へのローラブルリボンケーブルの受注・納入が進展してございます。上期は前年比 1.4 倍、年間では 1.5 倍以上の規模に成長してございます。

特殊ファイバ、こちらも 2 割以上の増収を見込み、増益に貢献している状況でございます。

1. 重点取組み（1）光ファイバ・ケーブル事業

■ 生産性・コスト競争力向上

- 北米光ケーブルは、Q2もコロナ影響による一時的な出勤率低下により、目標とした生産・出荷数量確保は未達も、改善傾向。
従業員教育の充実や日本からの技術支援継続・強化による工場全体のスキルアップは徐々に進展。



All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2021

7

次、7 ページ目をお開きください。

こちらは、われわれにとって最大の課題であります、生産性・コスト競争力の向上でございます。下の図のように、やはりまだまだデコヒコ（凸凹）しながらではございますが、徐々に上がってきている現状でございます。

ここにつきまして、なぜ古河の状況はなかなか厳しいんだ、ということがございます。少し、ご説明申し上げますと、一つは非常に地域の特徴があらうかと思えます。

アメリカ全体でのワクチンの接種率。なかで、このキャロルトンがありますジョージア州は接種率が 48%。全米 50 州のなかでワースト 10 に入ります。さらには、とくにこのキャロルトンのある郡は 30%未済でございます。結果といたしまして、いわゆるアメリカのなかでの 8 月から 9 月にかけて、ピークとなりました第四波、この感染者、全米では年初 1 月の第三波に比ばまして減っておったんですが、ジョージア州自体はほぼ同じレベルであったというのがございます。

そういう状況のなかで、もう一步、失業率の状況がございます。こちらは全米が 4.8%、そういうなかにおいて、ジョージア州は 3.2%、キャロルトンがございますキャロル郡は 2.9%でございます、逆に言いますと、非常に採用者の確保は難しい状況が、一方ではございました。

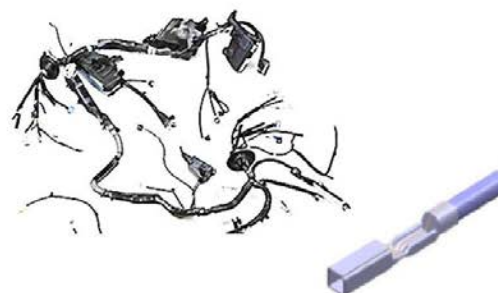
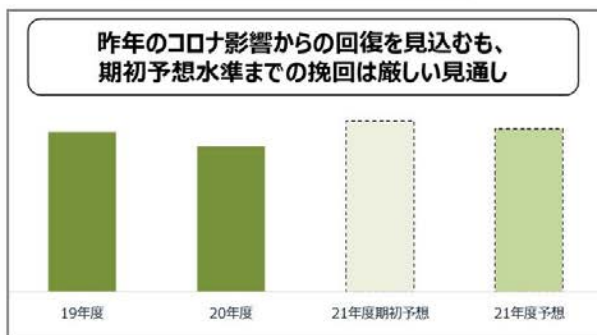
そういうなかではございましたが、私ども先程お話したように、いろいろお客様からの受注、これが始まってございます。したがって、なんとしてもお届けするというなかにおきましては、オペレーターの方へのさらなるインセンティブ、こういったことをプラスする。あるいは、従来の派遣会社だけではなく、全米でもポジションを持っておって、非常にフォローをしっかりとってくださるところ。こことも契約することによって、徐々に徐々に、いわゆる離職率が下がってきたと。加え

て、日本からの技術支援、こちらも進めるなかにおきまして、おかげさまでほぼ、上向きということが確認し、確信できる状況となっていることが見て取れると思います。

1. 重点取組み（2）自動車部品事業

- 上期は、半導体・樹脂不足等による顧客減産、輸送費高騰や物流遅延に加え、コロナ影響による東南アジア一部拠点のロックダウンなど、複数の環境要因によりワイヤハーネスを中心に売上・利益への影響大。

ワイヤハーネス売上高



次、8 ページをご覧ください。

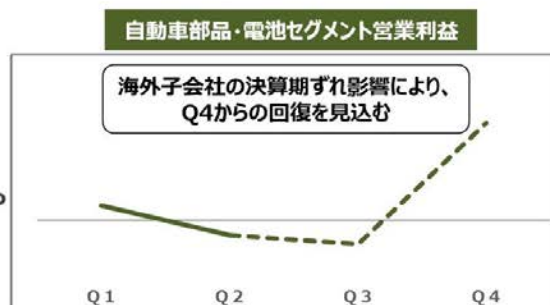
ここからは自動車部品事業について、ご説明申し上げます。

上期はご説明させていただきました通り、お客様での減産、あるいは輸送費の高騰や物流遅延、これらに加えて、コロナの影響により東南アジア一部拠点のロックダウン等、ございました。こういったことは非常に売上にも影響してございますし、当社の場合、1-12 という決算期もございますので、これは 3 クォーターまで影響しているというのがございます。

ただ、これは自動車だけではございませんが、古河電工グループ、世界に 123 拠点ございます。この 123 拠点、1 箇所たりともクラスターは発生いたしませんでした。これは私ども、ならびにこの各拠点のプロパ、ならびに日本から行っているメンバーの、本当に努力の成果でございまして。おかげさまで、自分たちが起因となる操業停止はゼロでございました。

1. 重点取組み（2）自動車部品事業

- 顧客の半導体調達問題解消に先行き不透明感はあるものの、足元ではロックダウンは緩和・解消。以下の取組みによりQ4からの回復を見込む。
 - サプライチェーン多重化のさらなる推進（ワイヤハーネス製造拠点、物流の効率化）
 - 顧客の需要見通しの精度向上と変動対応力強化（顧客情報把握・集約、戦略在庫保有による需要回復時への対応準備）
 - 輸送費、材料費高騰影響の低減（顧客とのコミュニケーションによる価格水準の見直し）
- 高水準での品質維持を目的に、引き続きワイヤハーネス製造工程自動化も推進中。
- アルミワイヤハーネス中心に新車種への搭載は着実に進展。



All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2021

9

次のページ、9ページをご覧ください。

そういうなかにおきまして、お客様の半導体調達問題。これはまだまだ先行き不透明感がございます。ただ、足元ではロックダウンは緩和、解消してございます。そういった状況から、第4クォーターからの回復を見込んでございますが、とくに進めなければいけないことは、その下の丸印の三つがございます。

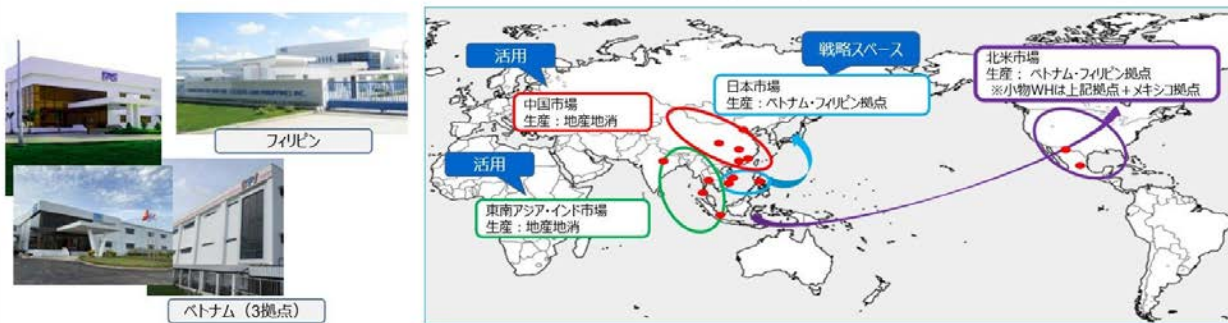
サプライチェーン多重化のさらなる推進。お客様の需要見通し、こういったものの精度向上と変動対応力の強化。もちろん輸送費、材料費高騰影響の低減は、進めてございます。

残念ながら先程言いましたように、1-12月の決算期もございますので、この右下の図にございますように、われわれの回復としては第4クォーターからの急激な回復を見越してございます。

1. 重点取組み（2）自動車部品事業

■ サプライチェーン多重化のさらなる推進：ワイヤーハネス製造拠点

- 昨年のコロナによるロックダウンを契機に、他地域での代替生産が可能となるよう主要拠点のフィリピン、ベトナムを中心に「戦略スペース」を確保。
Q2でのベトナムのロックダウンの際は、一部製品についてフィリピン・タイ・中国拠点を活用。
- 設備については設備製造元を複数化し、リードタイムを短縮。



All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2021

10

次のページ、10ページをご覧ください。

そのなかでも、とくに大切なのは、このサプライチェーンの多重化の推進でございます。

私どもは、昨年のロックダウンを契機に、他の地域で代替生産が可能となる、こういった主要拠点のフィリピン、ベトナム、こういうのを中心に戦略スペースを確保しました。これはどういうことかと言うと、スペースを空けて、そこになんらかの時には、いわゆる作業台を設置して他拠点で生産していた部材を生産するということでございます。

これ現実問題として、第2クォーターでも、ベトナムのロックダウンの際は、一部製品についてフィリピン、タイ、中国拠点を活用して納入させていただきました。

これは、私どもだけの努力ではございません。先程申しましたように、自分たちでクラスターを作らなかった。そのなかでしっかりと情報交換するなか、お客様から非常に高いエンゲージメントをいただきました。結果といたしまして、密に連絡を取り合っ、お客様とともにチームとしての対応ができたことから、当社起因でのご迷惑を最小限にとどめることができたと自負しております。今回の経験を活かして、さらにお客様との信頼関係を強化していくという動きがございます。

1. 重点取組み（2）自動車部品事業

- 新車種への搭載と受注確保は着実に進展。
特にワイヤハーネスアルミ化の加速で、車両の軽量化と環境負荷低減に貢献。

<搭載>

2021年4月「新型ランドクルーザー300搭載」

- ・トヨタ車体様 車両のボディおよびフロア用アルミワイヤハーネス
- ・トヨタ紡織様 シート用アルミワイヤハーネス

その他、下期に3社複数車種への搭載案件を予定。

<新規受注>

- ・25年以降立上げ車種へのアプローチ中
25年の受注済案件は売上計画の約70%



そして次のページをご覧ください。

こちらは、われわれにとりましてのワイヤハーネスのアルミ化の加速の状況でございます。

この、搭載のカラムに書いてございますが、一つは新型ランドクルーザー300への搭載。その下、二つのところにあります、トヨタ紡織様のシート用アルミワイヤハーネス。これらがドライブとなっております。

まさに完全防水。古河電工の素材技術によるワイヤ。そして、そこから必要な形状を満たすような合金設計、日光の銅条、さらにはそれを完全防水するべくファイバレーザによる溶接。こういったカシメ技術含めて、一体となったご提供によりまして、ご信頼をいただいております。

右の下のグラフにございますように、この売上高の動きのなかで、アルミのワイヤハーネスの搭載車種は、20年度末には6社46車種でございましたが、今後、8社100車種まで伸びてくる状況でございます。

1. 重点取組み（3）その他の事業における拡販・原価低減 FURUKAWA ELECTRIC

■ 主な取組み事例

- エネルギーインフラ（電力事業/産業電線・機器事業）
 - ・ 収益性を重視した受注対応の徹底
 - ・ 電力ケーブル工場増強による生産性向上とリードタイム短縮（長尺化対応を含む）
 - ・ 高付加価値機能線の拡販
- 電装エレクトロニクス材料（銅条・高機能材事業）
 - ・ 戦略商品拡販による製品ミックスの改善
 - ・ モノづくり力（生産性）向上

事業環境変化による影響を拡販・原価低減等の自助努力でカバーし、
両事業セグメントは、年間利益予想を上方修正

All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2021

12

その次のページをご覧ください。

これまで光ファイバ・ケーブル、ならびに自動車についてご説明申し上げましたが、われわれといたしまして、その他の事業において非常に進めている拡販・原価低減活動の状況でございます。

こちらには、エネルギーと、まさに収益性を重視した受注対応、この徹底によるエネルギーインフラの状況。それから、製品ミックスの改善を進めております、電装エレクトロニクス材料を示してございます。

まさに電力事業に関して、こちらはいわゆる建販等を含むものも入ってございますけども、私どもの超高压、地中線であったり、海底ケーブル、そういったもの。あるいは銅条の製品ミックスの改善。まさに各々の事業のなかでの製品ポートフォリオの改善。これらによりまして、今言ったような事業、このセグメントだけ見れば、今は大変高い銅価の状況にあっても、営業利益率が5%前後まで改善している状況でございます。

こういったような、いろいろな変革業務。これがしっかりと進んできているのを、まずこちらでお示したいと存じます。

1. 重点取組み（4）全社活動 材料安定調達

- 自然災害、事故、温暖化ガス排出制限等の環境規制等によるパートナーの工場停止等のリスクが発現。さらに、パートナーのポートフォリオ組換えに伴う高付加価値品へのシフトによる供給停止等のリスクも顕在化。

⇒ 調達先の多元化を進め、顧客への当社製品の安定供給を継続

<調達リスク低減策（例）>

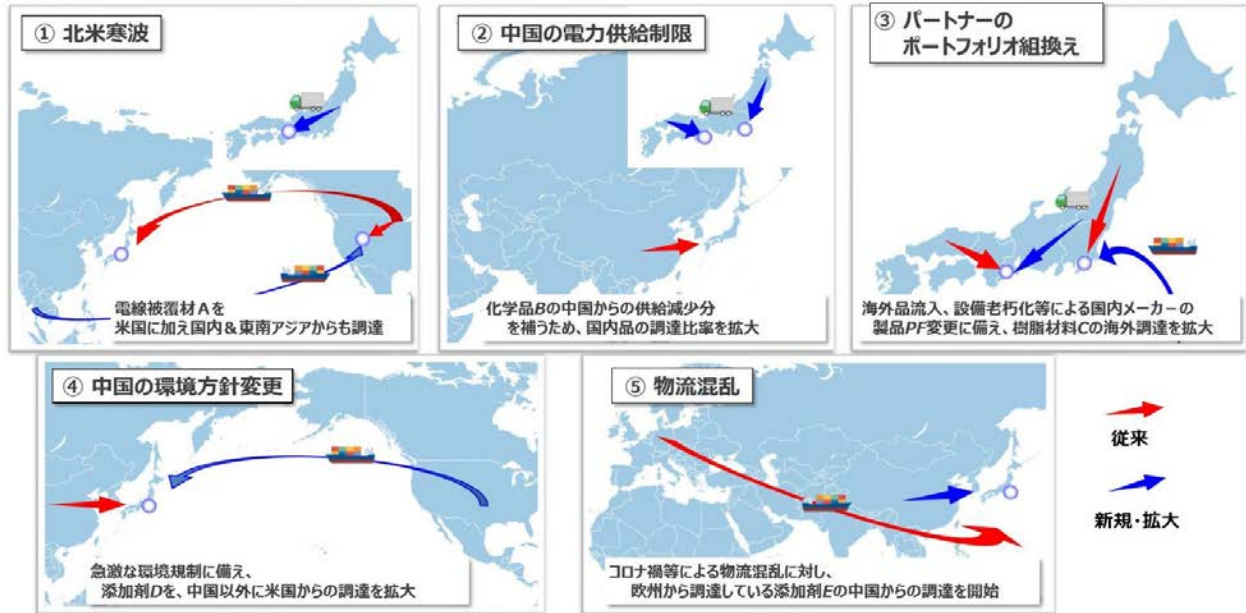
- | | |
|--------------------|---------------------------------|
| ① 北米寒波 | : 米国から調達している電線被覆材 A を国内外に調達先を拡大 |
| ② 中国の電力供給制限 | : 中国と国内から調達している化学品 B の国内調達比率を拡大 |
| ③ パートナーのポートフォリオ組換え | : 国内で調達している樹脂材料 C を国内外に調達先を拡大 |
| ④ 中国の環境方針変更 | : 中国と米国から調達している添加剤 D の米国調達比率を拡大 |
| ⑤ 物流混乱 | : 欧州から調達している添加剤 E を中国からも調達開始 |

次のページをご覧ください。

13 ページにおきましては、全社活動の材料安定調達についてお示してございます。

先程お話しした、リスクに対応することが下の囲みのなかにご書いてございますが、もう少しビジュアルでご説明したいと思います。

1. 重点取組み（4） 全社活動 材料安定調達



All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2021

次のページ、14ページをご覧ください。

こちらにございますように、北米の寒波、中国の電力供給制限等々ございます。従来、サプライチェーンは1本のチェーンが繋がっていて、ピンと張った状態を目指すという活動でございました。しかし、今般のようないろいろな調達リスク、これがある時には、これらを多重化する。いわゆるネットワーク化して、どのような状況下においてもきちっと調達できることが重要である。いわゆる複数購買であったり、いろいろな拠点のものを採用することに対して、技術陣には大変苦勞をかけましたが、おかげさまでそういったものが、活動が実を結びまして、なんとかこういった材料の安定調達ができるようになってまいりました。

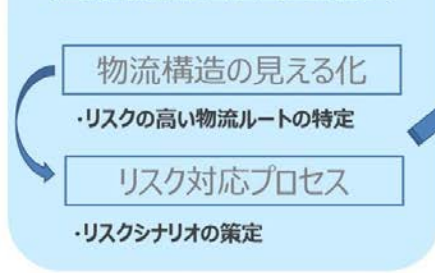
1. 重点取組み（4）全社活動 物流対応

■ コロナ影響等による港湾での船舶の停滞やコンテナ不足で物流が混乱。

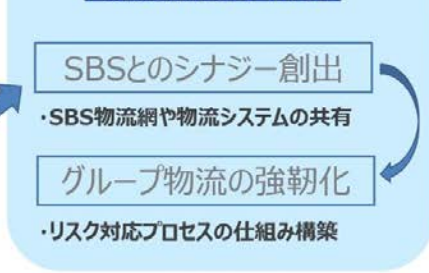
⇒ **安定物流を実現するための取組みを強化**

- ・ 物流構造を見える化し、拡大する国際物流リスクへの対応推進
- ・ SBSグループとの協働により、当社グループの物流を強靱化

国際物流リスク対応推進



国際物流の強靱化



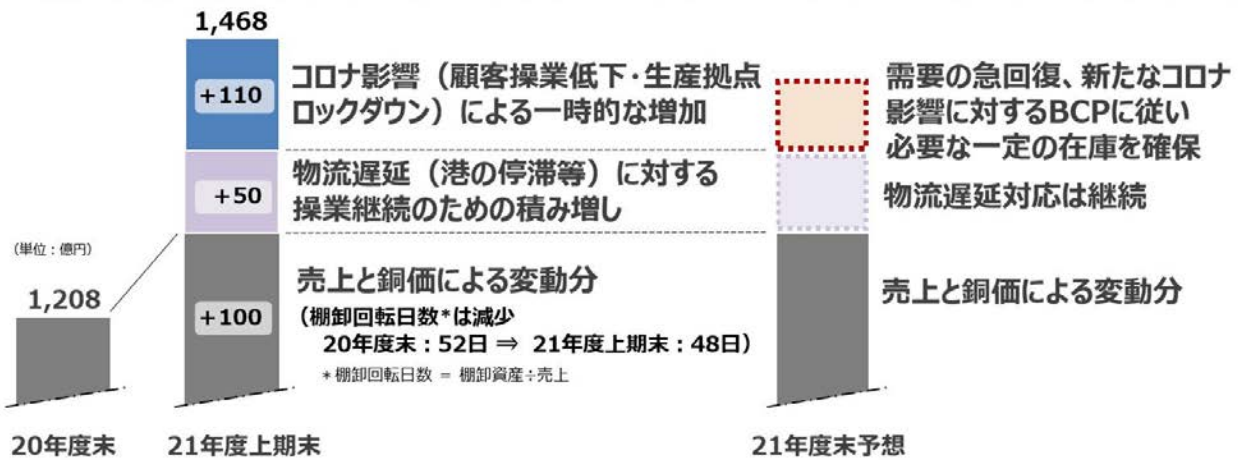
当社は、2021年4月に当社の完全子会社である古河物流㈱の株式の一部をSBSホールディングス㈱に譲渡する契約を締結しました。今年内の譲渡完了を予定しており、今後、総合物流企業であるSBSグループとの協働・一体化を進めてまいります。

加えて、次、15 ページをご覧ください。

安定物流を実現するための取組みの強化という意味おきましては、まさにこの SBS グループとの協働によりまして、当社グループの物流を強靱化することも進めてまいります。

1. 重点取組み（4）全社活動 棚卸資産管理

- 売上/銅価変動、コロナ影響による一時的な増加に加え、物流遅延への対応を実施。
- 年度末にはコロナ影響による一時的な増加は解消させるが、需要の急回復および新たなコロナ影響に対するBCPに従い必要な一定の在庫を確保。



All Rights Reserved, Copyright© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD. 2021

次のページをご覧ください。

こちらは棚卸資産の管理の状況でございます。

左側の棒が20年度末。その次が21年度上期末、右側が21年度末を示してございます。

売上と銅価の変動等によりまして、一番下のグレーのグラフ、プラス100億でございます。しかしながら、こちらは回転日数で見た場合は、年度末52日が上期末48日でしっかり管理ができてございます。

上の物流遅延、それからコロナの影響等による一時的な増加。これは意思を持って持ったものでございまして、このあとの市場の状況、お客様との密な情報交換によりまして、削減し、改善していくことを進めてまいります。

そういった状況のなかで、棚卸資産の管理につきましても、精度が上がってきた状況でございます。

2. ESG取組み (1) 環境

環境 (Environment)



「古河電工グループ 環境ビジョン2050」 (2021年3月)
 事業活動における温室効果ガス (GHG) 排出量
 (スコープ1、2) : チャレンジ目標 2050年ゼロ
 ※環境目標2030は、見直し中

カーボンニュートラル

■ カーボンニュートラルにおける基本的な考え方

- 1 自社のCO2を出さない・減らす
- 2 お客様と社会のCO2を出さない・減らす
- 3 排出されたCO2を溜める・変える

<今年度の主な取組み事例>

- ▶ 再生可能エネルギー関連 : 直流525kV級ケーブルシステムの長期課通電試験が完了 (4月)
- ▶ 電動車市場拡大・自動車軽量化/燃費向上 : 日亜化学工業様とモビリティの電動化推進を支える基幹技術 (レーザー加工) において業務提携 (4月)
- ▶ 平塚事業所にグリーン電力導入 (6月)



それでは次のページから、ESG についてご説明申し上げます。

ESG、まず環境でございます。古河電工グループ環境ビジョン 2050、これのなかにおいて、スコープ 1、2。チャレンジ目標 2050 年ゼロをコミットしてございます。

カーボンニュートラルにおける基本的な考え方、これは自社の CO2 を出さない・減らす活動。二つ目はお客様と社会の CO2 を出さない・減らす活動。三つ目として、排出された CO2 を溜める・変える活動がございます。

この自社の CO2 を出さない・減らす活動。一つは歩留まり向上であったり、省エネ、ガス転換といった作り方改革がございます。もう一つは、グリーン電力導入や自社内での設備導入による再生可能エネルギーの活用。こういったものがございます。

二つ目、お客様と社会の CO2 を出さない・減らすという活動。これにつきましては、まさにわれわれの商材もでございます。いわゆるシステムもございしますが、洋上風力、バイポーラ型蓄電池、アルミのワイヤハーネス、産業用のレーザー、こういったもので寄与してまいります。

排出された CO2、これを溜める・変えるという意味におきましては、いわゆる私どもは深層水を汲み上げるためにご使用いただいていた、送水管がございます。これを CCS に活用いただくことを進めてございます。

また、一方では最近いろいろところで発表させていただいてございますが、ラムネ触媒。ポリマーとメタルの技術から開発してまいりましたこのラムネ触媒によりまして、いわゆるメタンガス、これをレジリエンシーの高い LPG ガスにするといったような活動。これを進めてございます。

2. ESG取組み (2) 社会

社会 (Social)

人権対応



CSR行動規範改訂 (2019年)
CSR・コンプライアンス・ハンドブック
改定 (2019年)



人権方針策定
(2020年1月)



国連グローバルコンパクト10
原則へ署名 (2020年2月)



CSR調達ガイドライン改訂
(2021年3月)

■ 人権DD (デューディリジェンス) の取組みを開始 2021年9月

古河電工グループCSR調達ガイドラインに基づくSAQ (自己評価調査票) 調査を国内外の当社グループ会社 (79社) とパートナーのうち主要調達先 (約50社) において開始。順次調査範囲を拡大する予定。

次のページをおめくりください。社会に関してです。

社会に関しましては、左からCSRの行動規範改訂等々を進めて、この2021年3月にはCSR調達ガイドラインを改訂してございます。そしてこの9月からは、人権のデューディリジェンス、これの取組みを開始している状況でございます。

2. ESG取組み (3) ガバナンス

ガバナンス (Governance)

- 社内取締役1名減員 (2021年6月)
業務執行取締役と社外取締役が同数に



- 取締役および監査役
スキルマトリクス開示
(2021年6月)

氏名	職位	経理	財務・会計	労務・コンプライアンス	環境・エネルギー	情報・IT	顧客・マーケティング	総務・法律・監査
1 新田 光典		○						
2 小林 肇一		○						
3 塚本 肇					○	○		
4 塚本 隆史		○	○					○
5 嵯峨川 康樹		○		○				
6 新 ゆき子							○	○
7 斎藤 保		○					○	

- サステナビリティ基本方針制定およびサステナビリティ委員会設置
(2021年8月)

古河電工グループ サステナビリティ基本方針

当社グループを取り巻く事業環境の急速な変化に対応し、当社グループの持続的な成長を実現するための考え方

取締役会

↑ 提案・報告

サステナビリティ委員会

委員長 : 社長
副委員長 : ビジネス基盤変革本部長
委員 : 経営層
幹事 : サステナビリティ推進室長

統合報告書発行

2021年10月



ESGを経営のど真ん中に置き、ステークホルダーの期待から「期待」だけでなく「安心」して頂ける、企業グループへと変革してまいります。

当社グループのESG経営に関し、より理解を深めてもらうための内容を拡充

次のページをおめくりください。そして、ガバナンスでございます。

10月に統合報告書を発行させていただきましたが、左側でございますように、社内の取締役を1名減員し、業務執行取締役と社外取締役が同数となっております。同様に、スキルマトリクスを開示させていただきました。また、8月からは、サステナビリティ基本方針を制定したうえで、サステナビリティ委員会を設置し、活動を進めてまいります。

以上のような活動状況でございます。

3. 年間業績予想と配当について

- 年間の業績予想を以下の通り修正いたしました。が、
2021年度の配当は期初予想から変更せず、
1株当たり60円を予想しております。

(単位：億円)

	FY19	FY20	*FY21 前回予想	FY21予想	前年比	前回予想比
	a	b	c	d	d-b	d-c
売上高	9,144	8,116	8,800	8,800	+684	-
営業利益	236	84	260	200	+116	▲60
経常利益	228	52	240	220	+168	▲20
親会社株主に帰属する 当期純利益	176	100	120	100	▲0	▲20
銅建値 平均	682	770	1,000	1,046	(Q3-Q4前提：1,000)	
為替 平均	109	106	105	107	(Q3-Q4前提：105)	

*2021/5/12公表

次のページをおめくりください。

最後に、年間業績予想と配当でございます。

業績予想につきましては、先程、福永からご説明した通りでございますが、2021年度の配当は、期初予想から変更せずに、1株当たり60円を予想してございます。

以上、ご説明申し上げます。ありがとうございます。